

中川根ふる里通信

= 第 6 号 =

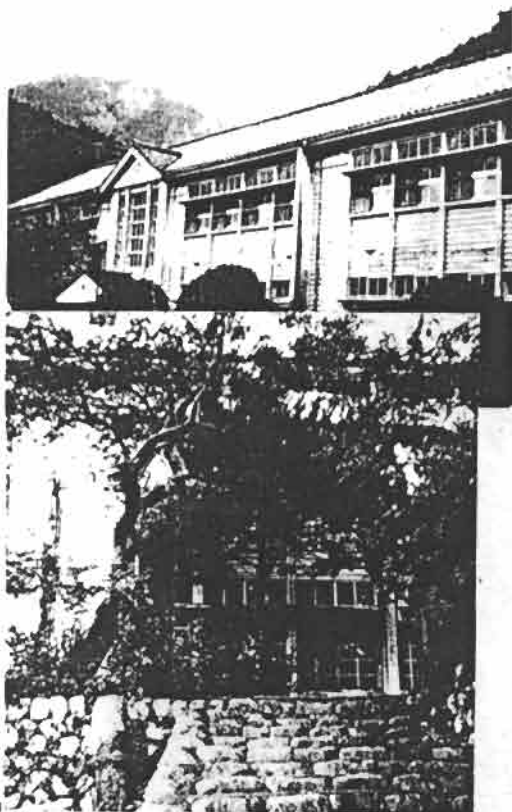
編集・発行・モア・ラブ中川根
 連絡先 〒428-03
 静岡県榛原郡中川根町上長尾
 中川根町役場総務課 990
 ふる里通信係
 TEL 05475 (4) 1111
 郵便振替口座くろ5屋7-81556



上長尾遺跡から出土された土偶

写真提供 トニヤ写真店 様

その6 母校は今 水川小学校



今を去る百十三年前、水川村福寿庵という寺に、長尾小学校水川支校として発足した義務教育の発展豊かな村づくりに貢献してまいりようたが、昭和四十七年三月十八日(卒業式)をもちまして、統合に伴う閉校式が生徒、水川区民一体となつて行われ、水川小学校創立以来九十八年の歴史の幕を閉じたわけだ。水川区は南北に細長く、交通上、地理上とわいえ、区を二分するの、第一小学校(徳山)中央小学校(上長尾)への通学は、本當にせつない過程をふんだに区民の心情も察すると、ころもありませんが、現在、ニキロメートル以上の道のりを元気に子供達は通学しております。

町内で廃校となつた学校で唯一、元の姿を残している水川小学校、校庭の木々も大きく成長し、十五年の年月をわすれてしまふかの様に、今は、各地から姿を消してしまつた、なつかしの木造校舎が、ひっそりと建っておりませう。現在、東海大学中川振研修所として、夏休みなどは、町の方から、沢山の子供達が、山の自然を接しにやってくる。お堂さんのお祭り等には、区民との交流も行われ、水川地区は、にぎわいます。

その名消ゆれど

小川千之

石垣高く里を見下し
塵外に立つ心すごく
教育の理想をこころにうたて
明治の始め開いた水川小学校

祖父母も父母も加えて孫も
明治に明けだ世紀の日本
大正昭和と進む歲月
万有流転の星霜百年

眼下には昼夜の別なく大井川が流れ
大空は南にひりけて白雲去来し
天長地久悠々無限の啓示を
この学び舎の師弟に与えた

邪悪なかれと無うは正義
曲学しりぞけめさすは真理
労をいとわず励みいそしみ
茶業日本一をも育てた

清い瞳を輝やかいつつ
あこがれ求めに真善美聖
あの友この反みだ睦み合い
童心溢れて高鳴る鼓動

春夏秋冬移ろい易く
学びの窓にひかる螢雪
よろこびかなしみ人さまさまに
尽させぬものは積る思い出

共に高めた愛國の至情
共に燃やした郷土の純情
花美しい師弟の敬愛
香り味しい信義と友情

いま聞かされる水川小学校
心のふるさと雄藍の園
ふりかへりつつ折るは一つ
その名消ゆれど魂残れ

大正雜感

中村千代

黄色いバラのように美しくそよそよとどこかにリリシのある
石橋千方善先生に迎えられて私の小学校生活が始まった。
お父さん校長先生と二人、授業は複々式だったから教室
は二つ、それと裁ほう室兼唱歌室というしゃれた構成で、ベヒー
オルカンが一つ、とても貴重品として置かれてあった。

この校舎の中に、素朴な玄関があった。巾広な板の間だった
が鏡のように磨かれて多くの先輩の努力を如実に物語っていた。
校風の象徴と思われた。私はこの玄関が大好きで、ここに
立つと心が洗われるようにさわやかで、折角用事を片付けて
ここを歩いて喜んだ誇りの玄関だったと後世まで思いつて
来た。

大正時代のスタイルは面白い。男女共に紺や袴の筒袖



最近の水川方面遠望 写真提供 諸田秀男氏

の着物は一寸ロブに着て葉をうりカバンはないので風呂敷包という姿だ
た。間もなく元祿屋がお見えしたので女の子らしくきれいな衣装になった。之が
膝這のミニスカートで得意だった。三つ編みの長い髪がたね。続いて又シ
ツと脇に赤線の入ったパンツの組合せでユニホームが学校全体に揃えら
れ、着物の体操と変って活発になった。足を高く上げる行進メデシンボール
巴道、笑い笑える思い出のみ。

昔は「か威しく雪が深かった。下駄はその登下校には何回も転んだ。そ
んなら或は降りつらした石段を下りなかつた。ふと「私もいつか年寄りにな
るのだから」と思っていた。一瞬間がシーンと痛くなった。事があったけれど
も「さよ、お別れ」って思ってしまった。学校さん、何かどうね、本当にお世話
になりました。」と感謝と共に握手の思い出が皆美しくなっていて蘇え
て来る。明後より三世いわれる子供の頃の顔が。言葉が。心が。心が
校舎の中、林に秘められていたと「さよ、お別れ」がこみ上げて名
残が、た。

「サマエツ、ワヨテラ。」でも前進のための開校です。この後はお互
いに、間に成長と希望をかけたけて、勢い、後日又思い出を

思い出のひと駒

鈴木一雄

白木稗の掛靴に石棒を入れて入学したのが昭和七年四月、受持の先生
は着物に袴(藤田つね先生)、石板に赤い白星で三重丸をもちつた時の嬉
しき大事に靴に納め家に帰って父母に見せたものだった。
私が三年の時(昭和十一年二月二十六日)もの浅い雪で運動場は四
十センチ位の雪が積り、雪合戦からスキーかう何んでもきた。あれほど
の雪はいつまた降った事がない。廊下で朝礼の時「日本に大事が起きた
と、それが二・二六事件であった。翌年七月七日支那事変が始まり、村
の若者が次々と応召されて行った。初めての戦死者、寺田芳郎さん、
宮川福平さんの村葬が上長尾小学校で行なわれ、上級生として列席
し、石棒を朗読した事、思い出のひと駒である。

ふる里での再会

板谷年純

昭和二十一年、五年ぶりに満州から
帰った日、旧友たちは天神森で水
あひとしていた。敗戦によって、惨め
に破壊されたふる里を想像していたほ
うには、不思議な光景があった。
「学校はあるか」ぼくは友人達に
「あるさ、え、」

「回遊塔は」
「あるよ」
「鉄棒は」
「あるにきまってるあ」
みんな声を立てて笑った。
五年生の九月始めて、あった。

さよなら水川小 鈴木佐智子

わたしはこの水川小学校へ入学してから、いつの間
に五年になってしまった。その間には運動会や音楽
会、臨海学校などいろいろなことがあった。その中で
も特に心に残っているのは、音楽会や学生大会のことだ。
音楽会は、わたしの大好きな行事の一つである。二年
生の時「すすめのお宿」という劇をやった。わたし
たちは、劇の練習がうまくなって、なかつた。時々先生
に「さよ、お別れ」って思ってしまった。わたしは、
なから練習をした。小学校へはじめての音楽会
だった。その舞台の上ですっかりあがってしまい、自分のま
うせりふを忘れさうになった。今でもよく覚えてい
る。校長先生や水川小を卒業された方に、むかしのお話
をしていただいた。算数が算術、音楽が唱歌などとなつ
かし、そりに話してくれた。お話を聞いて、いつか
この学校には、大勢の人の思い出が山のようにつま
まっている。わたしは、
この間「校舎」という題で学生大会があった。絵を書
きた。この学校もこれで終わりにしようと思つた。でも、
みん、気がした。絵はうまく書けなかつた。わたしは
心とこめて書いた。この校舎や運動場には、わたしたちの
思い出が、いっぱいあるのだと思つた。わたしは、さよ
この水川小のことをいつまでも忘れなかつた。

老いては子に従え

徳山 上野虎徹

「昔のように、三代家族が一つ屋根の下に仲よく住めれば、今一番贅沢だつてさ」先日、そんな話を聞き「へえ——。そんなものか」とびくびくした。

家族が一つ屋根の下に住むことは昔は当り前のことであつた。時代が変つたとはいへ、それが贅沢だつてどうしてそんな風になつたのか。

かつて、戦争を経験した人は誰でも知っているが、当時は、食へるものを求めて、どんなに遠くでも、リコックサックを背負い買い出しに行くなどして、一家全員協力しあつて生命をつないだ。

当地でも、その頃は今と違って、茶園は二〇%位、後は白畑で麦、さつま芋を作り、全員で先ず食へることに専念した。今の様に、各々が独立して生計を営む余裕などさらさらなく、生活の爲同居するのが必然であつた。

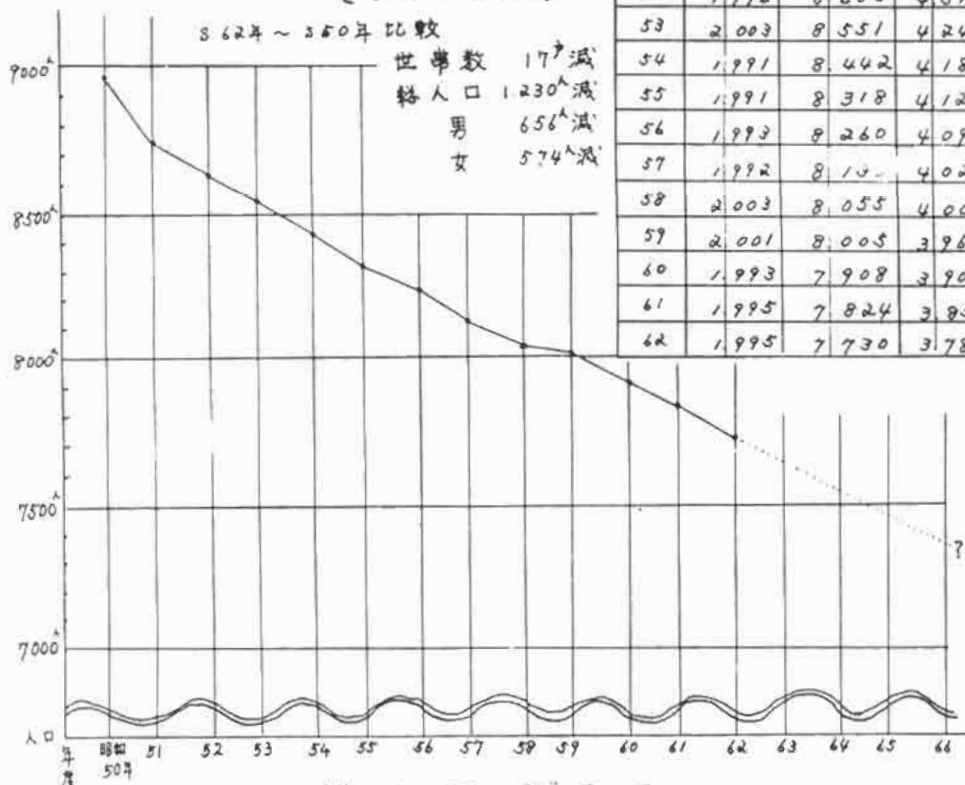
当時の生活を経験した人は、その体験が身に浸み込んであり、今でも無駄を許せないとこがある。我々の感覚が変化しないうちに、経済は急激な変化を成し遂げ、田舎でも都会でも基本的な生活種の確立がなされ、一様に生活を維持していくことにきつうくとする必要がなくなり、文化、情報など生活に無駄を求めた様になつてきた。また、経済の向上が、求人倍率を上げ、加えて、都会にはいつの間にかほとんど文化情報が集中する様になつてしまつて、都会に行けば、より豊かな生活が営める。そんな風潮に若者がほとんど都会へ流出して行つた。

そして、今日、故郷は、生き残ることに四苦八苦する時代となつてしまひ、流出した若者達が帰りたくても、求める職場仕事がないか見つけられないという状況になつてしまつた。子供達と同居したくても、都会の子供達の所には、生活するスペースがないし、都会の生活のペースについていけない。そこで、必然的に可能な限り故郷にいて生活することになり、別居を余儀なくされることになる。

又、地元に残つた者も、急激な生活様式の変化についていけない中高年との生活を嫌ひ別居する人が多い。そんな時代だからこそ、豊かな同居生活が、個性をもち、あこがれと相まってより贅沢に感じるのであらう。せめて故郷に住む我々には、皆各々言い分はあるだろうが、心豊かな生活を営むため、地域の再興のために、伝統のいいものは継承しながらも、生活の主流をなす若者達を中心とする新しい大家族主義の確立を考えていく時にさしかかつていふと思ふ。

中川根町の人口の移り変り

[3月末調査]



年	世帯数	総人口	男	女
50	2,012	8,960	4,438	4,522
51	2,002	8,754	4,324	4,430
52	1,996	8,686	4,311	4,375
53	2,003	8,551	4,245	4,306
54	1,991	8,442	4,186	4,256
55	1,991	8,318	4,124	4,194
56	1,993	8,260	4,092	4,168
57	1,992	8,100	4,027	4,108
58	2,003	8,055	4,001	4,054
59	2,001	8,005	3,962	4,043
60	1,993	7,908	3,904	4,004
61	1,995	7,824	3,854	3,970
62	1,995	7,730	3,782	3,948

総人口グラフ

その為にも、我々中高年が貫き通してきた生活感を改め時代にあつた柔軟な姿勢をもつて若者と生活できる様に努力していかなければならない。

「老いては子に従う」と言う金言をしみじみと噛み締める。今日この頃である。

中川根町商工会 会長

21世紀の展望と皆さんへの期待 羽田博士

「勉強してください。何か一番になれ！」 後輩たちに大いに語

N E C ・日本電気の L S I 事業部長 羽田祐一工学博士（昭和二十六年三月、中卒一島田高一静大文理学科・梅高出身）が、四月三十日に中中体育館で、「二十一世紀の展望と皆さんへの期待」と題して、三百の中中生に一時半のお話をしてくださった。

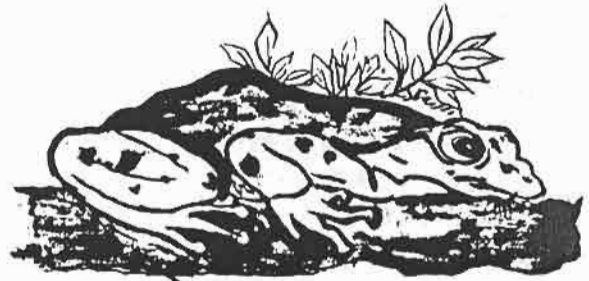
博士は、半導体の研究・開発・実用化で、日本、世界で最初という百二十件の特許出願の経歴と、学術論文二十件をもち、九州大学より「シリコン酸化膜の気相成長に関する研究」で工学博士を受けている。この道の權威で、海外出版も十三回に及び、この五月五日には、渡米予定の中を避けての、ご好意であった。

「二十一世紀は知恵の時代、脳細胞を大いに働かせよ。」

博士はまず、「好きこそもの上手」の句を引いて、「何か一番となる。得意をつくって、自信をつけよ。」と、理数科を得意として一番をつけた自分の中、高、大、学時代の経験を話しながら、「チャレンジ精神をもって」と話を進める。そして N E C に入社してから半導体との取り組みについて、化学用語を交えつつも、板書し、OHP を用い、例を引きつつ、わかり易い説明に意を注いでくれるが、今、日米貿易摩擦の火元になっている半導体の話は、中学生には少しむずかしい。が、小指の爪ほどの中に二百個も入っているという半導体が、人工の頭脳、神経、五官の働きをし、音声、手足、細胞となっていて働いているという話。また、二十一世紀の家庭に登場型カラーテレビが出現、防犯システムは画像や音声認識技術の実用化となつて現われ、学習コンピュータは、多目的情報ターミナルの実用化を進め、通信による知的サポートとして、家庭教師並みの指導まで行うようになるだろうと、二十一世紀への夢をかきたててくれる。

実に、エレクトロニクスは、産業の新しいコマ、新しいオイルであり、二十一世紀は、汗水流して働く時代から、椅子に座って仕事を定められる時代に変容していくだろう、その二十一世紀に生きる皆さんに期待するものは大である。「とにかく、勉強してください。」それには、

- (1) 何事にも努力！ 一％の可能性があるなら、それを努力でかちとれ！
- (2) 何かが一番になれ！ みんなが十やるところを二十やれ。三日やってできなかったら、六日やれ、六日でもできなかったら、十二日……



もりあおがえる

南赤石林道周辺整備構想

(1) 里山ゾーン (尾呂久保地区)

- ・もりあおがえるの里づくり
- ふるさと通信 3号で紹介した、大蛇の池が復活して、もりあおがえるの池になります。
- ・伝統の復活
- ・茶摘み体験

(2) 大札山周辺ゾーン

- ・入口標識
- ・案内板
- ・展望あすまや
- ・駐車場

(3) 野鳥の森ゾーン (山伏段)

- ・バードウォッチング
- ・自然観察会
- ・ハイキング
- ・案内板・解説板

中川根町 産業経済課

(3) 失敗をおそれるな。まずやってみよ。持続は力なりノである。

(4) エネルギーを集中せよ！

(5) 両親を大切にせよ！ 親があるから自分がある。できない、わからない、両親のせいにするな。わからない、できないのは自分の努力がまだ足りないのである。

まとめとして「頭の良し悪しではない」「一番重要なことは、やる気である。やる気を持続させることだ。努力の積み重ねこそ、自己実現につながる」と、博士は話を結ばれた。

学校長は、講師紹介の中で、博士の中中時代の学習ぶりや、生活態度に触れ、「博士は本気をもって学習に集中した人、勇気をもって行動した人、根気強く自分を鍛えていった人、先輩に学ぼう」と話したが、この日の博士の話は、まさに、それをうかがわせるもので、勢いある学校生活をめざす三百名の中中生に多くの感動を与えてくれた。なお、羽田先生は、「半導体標本三冊・自身の益修による図書、ワールドタイムクロック」をご寄贈くださった。

学校だより「なにかちゅう」又号より、学校長高畑智先生書。

87' 新茶レポート

レポーター、水川、野口直次

出版物紹介

小学生・社会科見学シリーズ・28

お茶をつくる農家

¥1,500.-

ポプラ社

藤川の高田忠夫さんの家の一年が紹介されています。茶農家の現況が細く判り大人が読んでもおもしろい。

清水達也先生(著者 五和出身)あじがきより。

お茶は緑茶でも、その製法によって「玉露」「抹茶」「煎茶」「ほうじ茶」などいろいろな種類のお茶にわけられます。

ここでは、ほとんど私たちが飲む機会が多い「煎茶」がどのように作られたか、茶づくりの一年の農家の一年を追いかけてみました。

正岡子規に

「茶の花の中に入りて茶の葉かむ」という句があります。取材中高田さんに「茶の花もいれんてすね」といいますと、「茶の木の花や実をつけたらいいお茶はできません」と笑っていました。

茶の木が弱ると花や実がでさるのでそうです。良い芽を育て、香りのいいお茶にするためには、農家のしつこい問題です。良いお茶は、その土地の自然条件だけでなく作る人の長い間かけての研究と、大変な努力によって生み出されることを、あらためて痛感させられた。

「皆さん、今年の中川根の新茶の味は、いかがでしたか？」
ふる里 = お茶 と言っても いいすぎない 今年度の一茶、= 茶を振り返ってみました。
川根地域はその年の茶の出来の良し悪して「一喜一憂」することはご存知だと思いますが、今年ほど痛切に感じた年はございません。昔から八十八夜の別れ霜と言う諺は聞きなれておりましたが、4月中の降霜、寒波は体験しておりましたか。実際5月4日～5日に(八十八夜も過ぎすぎたのに)県の中西部の山間部、川根の地域に強霜が襲いました。又追い討ちをかける様に5月8日午後又保尾、原山地区を中心に雹が降りました。手摘みの最中の自然の災いに茶農家の皆さんの痛手は、大きいものがありました。早期刈り込み等新しい芽に収穫を期待し一茶の時期は長びいたものの、収量及び品質の低下を最小限に防ぐ努力を致しました。又雹につきましても自然になすすべがありませんが、霜には、各農家の防霜設備の有無が、明暗を分けました。

今年度は第30回県茶品評会が地元キタハイ農協で開催されます。我が町でも町当局、農協、その他多くの団体の協力により、北は藤川地区南は又野脇地区に至るまで、町全体で20点近くの出品茶を摘みとることができました。八十八夜の前後 あっち こっちの茶園には、西たすきの婦人会の娘さん…… 連て一杯になり丹誠こめて作った新芽をていねいに摘み取っていました。茶農家は朝から「早く、町民全体が「お茶」意識に燃えました。10月には、きっと、この中川根から県下一帯のお茶が生まれる筈でしょう。

「ふるさと茶況」 - キタハイ農協中川根茶再製工場より。

冬の園相も良く春先の天候も順調に推移し、一茶期は前年度より収量は多く、みる芽で皮質のお茶ができ、価格は、安定傾向はいて、前年よりやや安かった。晩霜の被害も最近の防霜設備の普及により最小限にとどまりました。産地本物嗜好と言いますが、産地の特性を生かす研究努力をしています。

川根茶のポイントは、きれいで(形状) よく水色が澄んで(こぼみがない) 香りだかい(清純) まろやか(味) の様です。

茶店、デパート等の間接販売のほか、

「産地直売」も積極的に行っています。

ふるさと出身の皆様、「川根茶」への要望や意見をとしとせ下下さい。そして、皆様の近くにいらっしゃる方々に是非、「川根茶」をおすすめ下さい。

郷土を知る茶摘みの体験実習

中央小学校 三年生 児童の比呂さん

新茶の最盛期を迎えた五月中旬、上長尾の高畑達夫さんの茶園で児童らが茶摘みを中心にお茶づくりについて勉強しました。こんなにつんだよ」と頬に汗しながら生産の喜びを感じていました。



写真及び資料提供 キタハイ農業協同組合

文化財 徳山のぼんおどり

徳山 松本 正

社会変動の激しい現代生活の中で、現実的視野に立っていると、文化的生活を求めようとしてもなかなか余裕すら見当たらないのが現状かも知れない。

数多くの歴史の変遷を経て、現代に生きる私達にとって、歴史を振り返り、この地域に眠る多くの文化財を活かし、そして保護し、後世に伝えることも現代に生きるものの使命と言っても過言ではないであろう。ここで、我が町の文化財は、文化財保護法に基づき、町文化財保護条例によって、これを保護保存し、新たな文化財を指定し、町民の文化的向上に資することを目的として審議会を設けて、この保護保存に務めております。現在、県指定無形文化財をはじめとして多くの文化財が指定されておりますが、その一つである「徳山のぼんおどり」の一端を紹介することにいたします。

この徳山ぼんおどりは、無形文化財(芸能)で、昭和四十六年三月十九日県の指定を受けました。毎年八月十五日の夜、浅間神社で鹿ン舞、ヒーヤリ踊り、狂言が行われます。浅間神社は、西暦八八四年、仁和四年に創建されたと年表に記されており、西暦八八四年、元慶八年摂関政治が始まり、仁和四年の摂関白は、藤原基経で、浅間神社の創建は実に、一〇九九年前と永い歴史をもった神社であります。

また、三者堂発行の「日本の行事祭り事典」によると、若者たちは行列を作って、当座から踊り場へ行き、途中、地蔵堂の前で踊り、神社の鳥居前で鹿踊りを踊り、神殿前で鹿舞、猿舞、駒舞などが行われるなど、ほかと全く異なった盆踊りが演じられる、と紹介されておりますので、この盆踊りが他に類をみない歴史的伝統ある踊りであることを物語っております。

この鹿ン舞は、昔作物を荒らす鹿や獣などを追い払い、豊作を祈ったことから起ったものと伝えられ、今なお、徳山古典芸能保存会によって保存され、近年は中学生に受け継がれ祭典当夜は、遠くから、多くの人々が訪れて、山村の夏の夜を賑がせ山間に、こだまする花火の音と共に響り上げられます。

生活のあわたたしさの中にあつて、ともしれば忘れ去らうとする歴史をもう一度ひもとくとき、地域の優れた文化財を探究し、ここに

生れ育った喜びと誇りを取り戻し、この故郷から離れ去った人々が望郷の一時を川根路に想いを寄せられることを期待し、ふるさと通信の一端に思いを託して寄稿させて頂いたいただきました。川根路の春に新茶を味い、夏に清流に涼を求め、秋に紅葉を満喫し、冬に家族のぬくもりを感じ、中川根四季の里が心の里として多くの人々に愛されることを願って止みません。



国道362号線と大井川鉄道、徳山駅手前ふみ切りの所に建てられた 鹿ん舞の案内板

写真提供 高郷 諸田秀男さん



中川根町のテレホンカードが発売されています。

大札山周辺の赤やしおつじが写っています。好評で残部も少ないのですが、御入用の方は「四季の里」まで御連絡下さい。

700



中川根町章

この町章は、大井川に沿った町域を表すとともに、川をはさんで合併した町を象徴し、「中川根」の文字を図案化したものです。

コ-ナ-

昭和61年4月～昭和62年5月

お便りです。



私の川根との出会いは、小学3年の8月からになり一番始めが壺町河内でした。
 榛原郡坂部村、吉田町を経て来ました。
 川根の印象は 緑が多くて 空気がきれいで、生活しやすい所でした。 現在九州、熊本に住らして、夏になって 暑くて暑くて どうにかなりそうになる時必ず思い出す所が 壺町河内なんです。 ああいう所もあるのだ... と自分に言い聞かせて、夏をすごします。それにびっくりした事は学校の事でした。同級生8人、1年上の人1人、その上の人6人、1年下の人6人——同級生100人をこえた吉田の学校に比べてみてのびっくりでした。どちらかと言えば 学校から帰って、家の近くで遊んでいる様な感じの学校生活でした。先生は夫婦の方でとてもやさしい先生でした。初めての遠足は 田野口から上長尾に行った様に思われます。何にも増して、つり橋のこわさは忘れない事です。橋のたもとにすわり込んで、動けない私と妹を、先生がおぶって渡ってくれた思い出は 今でも強烈なものです。これではいけない、どうしても渡れる様になりたい。と真面目に考えました。でも何時の間にか 渡れる様になったのは、何のきっかけだったのか思い出せません。
 又、運動会は 大人の人達もいっしょになって 走る所を作ってやりました。皆んないっしょに運動会をした事は、いいものだと思います。でも勉強は楽た「ゲー」と思いました。そして一年 今度は下県に移りました。それから こちらに来るまで 居ましたが 離れて思う川根は やっほり 緑と空気のきれいな所。これからは 時々行きたいな と思います。
 又 真夏に行って、しばし 涼を 樂の(み)たいと思っっています。
 いつまでも きれいな川根でいて下さい。

熊本県八代市在住

鶴田つや子さんより
(旧姓 大石)

昭和32年徳山中卒業

熊本県花りんどう



ふる里を離れて住んでいて
 今の状況はもとより私達の育った
 時代の遠い昔の思い出記事など
 懐しく読ませていただきました。
 静岡市在住 藤中俊平さんより
 (瀬沢出身)



懐かしいふる里がどの様に変化しているのかな？
 といつも楽しみに読ませて頂いております。
 川根は今お茶の最盛期、皆さんお忙しい毎日
 過ごされている事でしょう。金沢はこれから見がい
 のある観光シーズンに入ります。

遠く離れているとふる里が非常に
 恋しくなり 大鉄の観光バスを見るたび
 声をかけたいたい心境になります。

石川県金沢市在住

津田淳子さんより



石川県花くろゆり

ふる里通信 嬉しく読ませていただきありがとうございます
 いままで知らなかったふる里の色々のことを
 知る事ができました。今後は楽しみにしていきます

岐阜県在住
山田宣男さんより

お便り

皆様よりの

前略

中川根ふる里通信送っていただき有難う御座居ました。
 とてもなつかしく父から聞いた高瀬舟の話、
 母がその舟にてお嫁に来たとか、
 今後も皆様の懐しい川根でのお話を期待しています。
 それから定期購読会員からのお便りも乗せていただきと
 なつかしい名前が……。そこから思い出もふくらむの
 ではないかと思ひます。

島田市在住 山本 昭子 さんより
 高郷 出身 (旧姓 藤田)

中川根より封書が届き「なんだろう？」ということであけ
 させていただきました。たったの3年間という中川根の
 生活をしていた私に「ふる里通信」を送っていただき感激
 しました。当時すばらしい子どもたちと接することができ
 また町民体育大会に参加させていただくなど良い思い出
 をふりかえらせていただきました。

ますます心の通った中川根の発展を期待しております。

三ヶ日町在住 永田 和史 さんより

例年なり うとうしい梅雨の季節
 なのに、今年は6月とは思えない程スッキリ
 としたお天気が続きます。そういえば
 川根のお茶も今年(561年)は少し遅れた
 様でしたネ。6月8日の日に第12回
 中川根中学校卒業生の同級会が掛川市で
 催されました。掛川在住の3名の方が
 骨を折って下さって、お茶摘みと田植えの間
 を壁んで下さった様です。午前中は掛川
 のはずれにあります菖蒲園加茂荘を散策
 午後掛川市にもどりまして昼食をとりながら
 思い出話となりました。

今回は特別ゲストに栗田芳枝先生がお見え
 下さいまして、昭和31年~33年頃の中中の
 様子が昨日の事のごとく、皆さんの口々から
 放され、それはそれは愉快極まりない日
 を過しました。皆さんどうもありがとう。

静岡市在住 中川根中
 第12回卒業で良かった
 と思っている子より



新聞でこの事を知り私の祈にも届けてくれるかな？
 と心待ちにしていたので大変うれしく思いました。
 中川根からそんな遠い所でもないのに、なかなか
 ふる里には(実家も島田に移転した為)訪れる機会
 もありません。すみからすみまで懐しく見せていた
 きました。特に「母校は今」の中中の変わった姿に
 驚くと共に、何となく胸があつくなうって参りました。
 私は木造校舎の時の卒業で、現在校長先生をな
 されていらっしゃる高畑先生に(一)三年まで担任して
 いただきました。子供時代を過ごした下長尾のシリ
 ズも楽しみにしております。

島田市在住
 福島 美賀 さんより

ふる里通信 お送りいただき有難うございました。
 これほどきれいな水と鮮やかな緑の森に
 恵まれた所は地球上にそうたくさんあるものでは
 ないと常々考えておりました。

今ふる里中川根がその天恵の利点を十分に活か
 しながら豊かな町づくりに邁進しようとしている
 ことを知り、うれしく且つ、心づよく思っております。
 埼玉県志木市在住

金 沢 浩 さんより
 (高郷出身)

中川根を離れて二十五年 私も
 ふる里にちよびり関係のある
 お茶の小売店を営んで
 おります。
 懐かしさのあまり夢中になって
 読んでおりまして、お客様から
 「トントン肩を叩いて下さいませ。」
 の連絡、なかには中川根の方へ
 行って来た人も見えて、楽しく話
 が弾みました。

東京世田谷区在住

久保田みよ
 さんより



上長尾遺跡

上長尾遺跡は集団墓地か

池田 純

夕宮の丘に、大昔の人々が住んでいたらしいというところは、この方面に興味をもったごく一部の人間には、古くから知られていたようです。ところが昭和二十七年、島田高等学校郷土研究部による調査がきっかけで、一躍全国的に有名になりました。それは、高さ二七・ニセンチ、空洞丹彩の土偶(中が空洞になっていて、赤い色がぬられている土製の人形)が発見されたからです。この土偶は、すいぶん変わった顔をしています。楕円形の大きな眼鏡の奥に、細い長い目があるといった感じなのです。

この目の形が、「積雪地で反射光線をさえるために、細いのぞき穴をあけて用いる眼鏡」に似ているところから、「遮光器土偶」と呼ばれています。この遮光器土偶は、当時、青森で四個、群馬四個、千葉一個の計九個が知られていただけであり、本州最南端での発見という大きな意義をもって、いたからです。(この土偶は現在東京の国立博物館に保管されています。)

その後、昭和二十九年、島田高校郷土研究部による調査、昭和五十一年、五十二年の新校舎、体育館建設に伴う発掘調査と続きました。以下、過去四回の調査報告書をもとに、上長尾遺跡の概略をまとめてみたいと思います。

ふる里紹介



磨製石器



打製石器

(矢じり)



土器片

出土した遺物の一部

＊左端の石ふは長さ30.2cmあります。

上長尾遺跡はいつごろのものか

上長尾遺跡は縄文時代の人々の生活の舞台でした。縄文時代は約一万年ほど続いたと考えられています。そのうちのどれくらいかの時期に当たるかというところは、出てくる土器の文様や形、そのほかのことから決められます。

上長尾遺跡は縄文中期(紀元前五〇〇〇年)から後期(紀元前四〇〇〇年)の遺物(土器や石器)の発見される量が多いことわりわがてきたことです。人々が現在のように一定の場所に居住するようになったのは、一般的に弥生時代になって稲作が伝わり、食糧の確保ができるようになってからだと考えられています。ですから、自然物の採集や狩猟にたより、農耕があまり発達していなかった縄文時代の人々の生活は、すい分たいへんなものだったと想像されます。

従って、夕宮の丘を生活の舞台とした人々も、ある時期にここへ移動してきて、自然の恵みが少なくなると、また新しい土地を求めて(あるいは、それまでの移動の経験から予定した土地へ)移動していったものと考えられます。上長尾遺跡から出てくる土器の文様や形とよく似たものは、東北地方から近畿地方にまで広がっています。このことから、上長尾遺跡に来た人々は、ある時期には関東地方に多く見られる土器を使っていた人々が、またある時期には中部山岳地方の、またある時期には関西地方といった状態であったと思われる。

上長尾遺跡の特徴

(1) 大井川流域で最も古い土器が出たこと
大井川流域の縄文時代遺跡は、百十二箇所が知られています。早期の土器を見ることが出来るのは、現在のところ上長尾遺跡だけです。

また古いだけでなく、長く続いたことも特徴の一つです。長く続いた遺跡としては、静岡市井川割田原(わんだはら)、本川根町泉下開土(しもかいと)、島田市湯日風西(かざし)遺跡などが知られています。

(2) 土壌(どこう)が多く、過去四回の調査で百五十個以上を数えること
「墳」は墓穴そのものをさす言葉ですが、これまでの調査では、穴や浅いくぼみも土壌として数えています。これに建物の礎石等が破壊されたものも加えると、かなりの数にのぼると思われる。

昭和二十七年の発掘担当者はこの土壌に注目して、早くも当時の調査地域(主に新校舎の東側部分)を「集団墓地ではないか」と考えていました。それは、当時死者を埋葬するのに、穴を掘ってそこに埋めるという風習のあることが知られていたからです。

埋葬の仕方としては、伸展葬(全身を伸ばした状態で葬ったもの)、屈葬(手足を折り曲げた状態で葬ったもの)、甕棺葬(縄文時代晩期に主として行われた方法で幼児の埋葬に甕形土器を使ったもの)などがあります。また、成人墓、幼児墓、合葬墓などの別もあります。

従って、発見された百五十個以上の土壊のどれがどの方法で埋葬されたかということが先になるわけですが、現在のところ、この土壊はこの方法というように、いちがいに判定できないのが現状です。

「……墓を含む、信仰ないし、宗教的場としての色彩の強い地域であったと言えらるゝとすれば、ここに葬られた人々の日常生活地域はどこであったのか、同一丘陵上にあつたのか、あるいは他の離れた地域に一地域、あるいは教地域存在していたものなのか不明である。」

(3) 住居址と断定できるものがないこと

住居址といえは、規則的に並んだ柱穴、炉などを持つていているわけですが、過去四回の調査のうち、昭和五十二年に一例だけ、規則的に並んだ四本の柱穴のような土壊が見つかりました。

しかし、炉が発見されませんでしたし、住居内部の床と外部を区切る土手のようなものも発見できませんでしたので、「住居址と考えてもよからう」というにはとどまっています。

〔広報 中川根 昭和五十四年七月五日発行より〕

余録

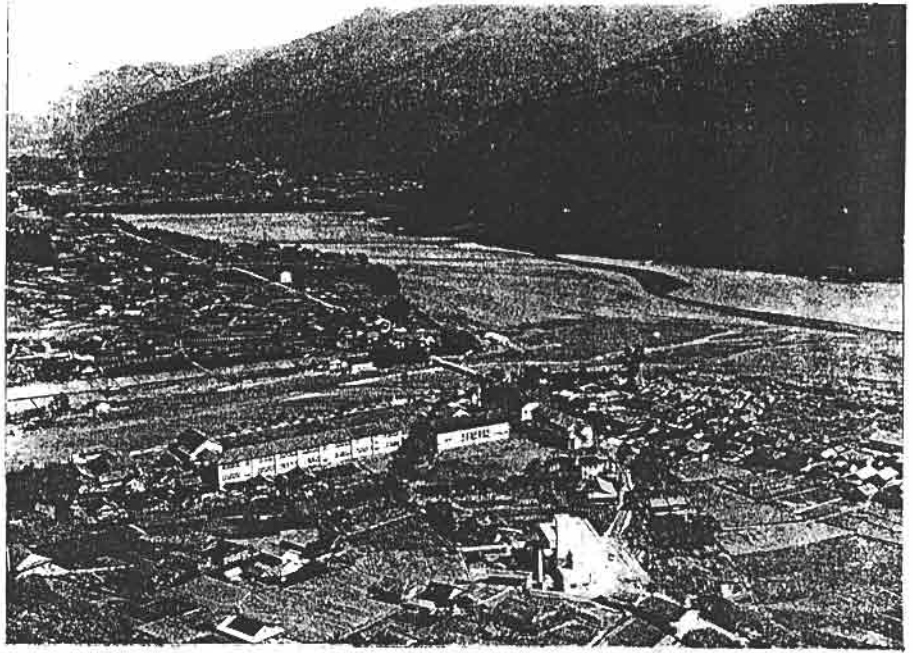
「上長尾小学校の所は昔はお墓だつてさ——」「そいだて夜になるとゆうれいが出るんだつてさ——」「こわいともお——」小学校の時、友達が恐ろしくその顔をして、ひそひそ話をしていた。私の小学校の時代、中川根村公民館、その南側新校舎が建てられた。土偶の出たころ、子供達は、土器だ、石おのた、矢じりだ、頁岩だ、建築工事現場の周囲を遠巻にまわしたものだつた。

ついでこの頃聞いた話だが、上長尾小学校が明治三十五年ごろ建築された際、おびただしい人骨と土器が堀出されたと言ふ。当時の人々も「これは……」と思ひ智満寺の楠木の根元に納めたとの事である。八十余年たった今、お寺の楠木がどこにあつたのか、現在プールになつて居る所にも楠の大木があつたと言ふ事だし、空気にさらされてから埋められた骨は、どうなつたのだらうと想像したりするのだが——

それにしても高郷(中央小附近から山にかけて)には神事に関するものありやうな地名(小字)が残っている。夕宮(ようみや)を取り囲むようにして、神田(じんてん)湯の本(もと)、筒井(つつい)堂の下、田頭(たがしう)などがそれで、つい近年まで女性が近づいてはいけない場所、

池田 純先生紹介

ふる里が生んだ県下でも数少ない考古学者であります。現在藤枝市在住、小学校の先生です。実家は高郷夕宮の丘を望む所にあります。中中から島田高校在学中は郷土研究部で、静岡大学では歴史研究部に所属、それぞれ各地で遺跡発掘に参加され、活躍されました。先年は、幼少のころより、石器や土器に強い興味を持たれ、中1の時、「僕の趣味」と題した上長尾遺跡の作文が県小中学校つりあコンクールに入選されました。今後の御活躍を期待します。



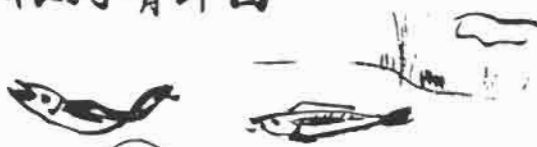
もあつたやうである。字名のついたのは鎌倉時代と言われているが、定住した我々の祖先の延々と続く生の営みを感じるのである。昭和三十年代より建物が増えてくれ国道を中心としたかつての大井の流れた地域の変わりゆくは、夕宮の丘より北側は、現在も静かなたたずまいをしております。

昭和三十四年秋の高郷上長尾地区及び田野口遠望、上長尾小と中中の木造校舎と高郷地区の田んぼ、中徳橋のつり橋も懐かしい。

第2回 大井川 清涼祭

若い力を集合して、今夏も大井川清涼祭が行なわれます
お盆には、緑と風と水のおいしいふる里へお帰り下さい。
なつかしい友も、祖先も、親も あなたの来るのを待っています。

日時 8月14日 夜 7:00 ごろ
場所 南部小学校グラウンド (下長尾)
なにを 盆おどり
バザー
打上花火
雨天 順延
主催 中川根町青年団



定期講読のお願い

「中川根ふる里通信」は 有料発行です。
(一部 送料 100円)
皆様の定期講読申し込みがこの通信の発行を支えます。今回で契約の切れる方には郵便振替用紙を同封致します。どうぞ引き続き、ふる里通信の会員になっていただきたく思います。又、住所変更のおりも御一報お願いします。郵便振替口座 <名古屋> 7-81556
電話は 05475 (6) 0015

編集係 小沢節子宛

町内 祭 ご案内 10月25日まで

- 7月 14日 平谷 流したい
- 23日 水川 観音堂 祭典
- 30日 徳山地蔵堂 祭典
- 8月 1日 智満寺 水向行 (上長尾)
- 9日 智満寺 観音堂 祭典 (-)
- 14日 第2回大井川清涼祭 (下長尾)
- 15日 徳山浅間神社 祭典 (徳山盆おどり)
- 9月 15日 藤川大井神社、下泉八幡神社 祭典
- 10月 4日 地名大井神社 祭典 (才1日曜日)
- 10日 徳山神社 祭典
- 11日 田野口 津島神社 祭典 (才2日曜日)
- 15日 水川神社 祭典
- 16日 瀬戸座王神社、久野脇八幡神社
- 17日 下長尾八幡神社 祭典
- 20日 上長尾八幡神社 祭典
- 22日 久保尾の向井地区 日吉神社 祭典
- 24日 久保尾 徳野 龍現 祭典
- 25日 久保尾の厚山及下泉の小竹、日嶽天満宮

編集室

光陰矢のごとしのごとく、才六号の祭刊期をむかえ、あふたした日々を送り内容的にも不満多し、本当に申しわけなく思います。今回号に皆様よりのお便りコーナーを設けました。全国各地よりのお便りに待ちにしております。郵便振替用紙も是非ご利用下さい。又、ふる里通信への御意見要望ありましたら、お聞かせ下さい。紙面向上の要となりましょう。夏のバカンスをどうぞふる里へ足をむりて下さい。首都巻水不足のおりお見舞い申し上げます。お盆、お盆、お盆の水を、(お茶を) たくさん飲んでほしいのです。